私たちの町の遺跡　二本木発掘物語

■中国からの輸入品

二本木遺跡からは貿易輸入品である中国陶磁器が出土します。特に、今から約850年前、平清盛が活躍した平安時代の終り頃（中国では宋時代）のものは大量にみられます。この頃、肥後国の中心地であった二本木の町には、様々な商品があふれ、豊かな人々が活動していたのでしょう。本来、貴重品であるはずの中国陶磁器も大量にもたらされていたのです。そうした中国陶磁器は、どのように運ばれてきたのでしょうか。

中国南部の沿海に寧波（ニンポー）という港町があります。この頃、市舶司（しはくし）という日本向けの貿易センターが置かれ、周辺の生産地から集められた陶磁器を梱包・仕分け・出荷していました。このことを示す資料が二本木遺跡から出土しています。それは、中国語で「綱司」と墨書きされた陶磁器です。「綱司」とは船長という意味で、貿易品の荷主を識別するために、寧波の市舶司で書かれたものです。この後、国際貿易港である博多を経緯して二本木の町にもたらされたのでしょう。たった1点の資料ですが、はるかな海を渡ってきた中国陶磁器には国を越えた人々が関っていたことがうかがえるのです。

熊本市文化振興課　美濃口雅朗

底に「綱司」と墨書きされた中国からの陶磁器椀

はるか昔の平安時代中国から二本木への交易ルートが確立されていたとは驚き・・・

平成24年9月　みにくま第113号に掲載